

〔優良賞〕 ホルマリン試料容器「セーフキャップ」



代表取締役社長
一色 勝彦氏

三晶エムイーシー株式会社

〒936-0824 富山県滑川市本江345

TEL.076 (474) 0035

<https://www.sansho-mec.co.jp/>

【産学連携特別賞】

富山大学医学部病理診断学 教授 平林 健一 氏
〒930-0194 富山市杉谷2630 TEL.076 (434) 2281

医療従事者のホルマリン暴露を防ぎ、健康と安全を守る病理検体回収用容器。医療現場には、病棟や外来、クリニックなどの空間的・費用的な理由から局所排気装置の設置が困難な場所が存在するが、それでもホルマリン入り検体容器を使う必要がある。従来の容器はホルマリンがあらかじめ容器内に充填されているため、ふたを開けて検体を入れる際に気化したホルマリンを吸い込むリスクがあり、健康被害や作業環境の悪化が懸念されていた。

「セーフキャップ」はふた部分にホルマリン溶液を入れてフィルムで封印。検体を入れてふたを閉めると容器内部のカッター部分がフィルムを破り、ホルマリンが自動的に容器へ流れ落ちる構造にした。これにより、ホルマリンは常に密閉され、外に出ることが無くなり、懸念されていた問題が解決した。

また、開発段階で実際に使用する医療現場の人たちから、形状や仕組み、使い勝手などの意見を取り入れ、従来の容器と全く同じ「ふたを閉める」という動作のみで作業が完結するようにした。そのため、新しい道具を導入する際に課題となる追加の訓練が不要で、習熟不足による誤操作の心配がない。

価格は従来の容器と同程度。部品を2点に絞り、自社設備で生産することで低価格を実現した。さらにセーフキャップの導入で暴露対策としてコストのかかる局所排気装置の設置や作業環境測定が不要となるため、医療機関の運用面・経営面にも貢献できる。

